

岡山県子ども・子育て会議 議事概要

(開催要領)

- 1 開催日時：令和2年7月30日(木) 10:00～11:30
- 2 場所：県庁3階大会議室
- 3 出席委員名(計14名、敬称略)
神田 敏和、佐藤 和順、滝澤 十、鳥越 範博、中山 芳一、西村こころ、
則武 直美、服部 剛司、菱田紗絵子、福川 真理、水島 剛、光岡美恵子、
山口 哲史、山下 芳枝

【議事概要】

<議題>

- 議題1 「岡山いきいき子どもプラン2015」数値目標の実績報告等について
- 議題2 県内保育所等の現状について
- 議題3 令和2年度少子化・子育て支援対策等について

(桑原子ども未来課長)

資料1～3に基づき説明

○発言要旨

(委員)

資料1の1ページ、岡山県の合計特殊出生率の推移について、個人的には1年単年度で上がった下がったと一喜一憂すべきではなく、10年、15年の長いスパンで見ていくことが必要だと考えている。ただ、減少している理由やそういったことの分析は必要かと思うが、今回前年から0.06ポイント下がった要因を県はどう考えているのか教えてほしい。

(桑原子ども未来課長)

全体として、全国と同じ傾向になるが、未婚化、晩婚化、晩産化により、ここのグラフで言うと一番左の所が団塊ジュニア世代の山、その団塊ジュニアの子供の世代がちょうど真ん中あたり、少しだけ山があるようなところ、ここの山が大きく上がらなかったということが響いている。

今年0.06ポイント減少となった理由について、まだはっきりしたことはわからないが、特殊要因として考えられるのが令和婚の影響で、5月の結婚が対前年で2倍ぐらい伸びており、全体として結婚を後ろ倒しにしたということが考えられる。その影響で令和元年の出生数が思ったより増えなかったということも理由の一つではないかと分析している。

(委員)

また引き続き時間をかけて、詳細な分析等を継続していただきたい。

(委員)

資料1の4ページ、「IV子育て家庭をきめ細かくサポートする体制づくり」の放課後児童クラブ実施か所数が目標を大幅に上回っていて、非常にうれしく思っている。

ちなみに、今回の報告の中で、とりわけがんばって今結果も出している事業という、どの辺になるか。

(桑原子ども未来課長)

子ども未来課の話で言えば、結婚サポートセンター。先程お話した少子化の要因の中でも、一番の要因は未婚化と言われており、少子化を是正していくにはまず結婚してもらうことが重要である。そういった中で、平成29年度からマッチングシステムを開始し、結婚したいけれど出会いの機会がないという方たちのために、出会いのお手伝いをしており、資料にもあるように昨年度末までで89件結婚に至った。

このシステムには、行政側がそういうことに関わっているよという県民に対するメッセージ的なものもあると思っており、全体としては気運の醸成に繋がっていく事業にしていきたい。

(委員)

もちろんできていないところや問題点も重要だと思うが、とりわけ頑張って結果も出せているところをぜひ積極的に発信していただけたら。

(委員)

岡山で働き、楽しく子育てができるというような全体的に力強い県政を行っていかないと、少子化が止まらないと思う。赤ちゃんを産む世代の方を逃がさないように、ぜひとも大きな意味での県政を展開してほしい。

(委員)

資料2の保育所等の運営状況で、保育所・認定こども園の充足率が94.4%で、相変わらず保育士不足が深刻かなと思っている。地域型保育事業も81.2%の充足率ということで、ここも保育所が足りてないかと思うが、地域型保育事業の中で、小規模保育、家庭的保育、事業所内保育のそれぞれの増加数を教えてほしい。また、保育士不足の対策についても聞かせてほしい。

(桑原子ども未来課長)

増加数の件は、確認する。保育士不足については、子ども未来課内の保育士・保育所支援センターにコーディネーターを2名配置して、保育人材の確保、特に潜在保育士の確保を中心にやっている。このセンターに、昨年1年間で1,400件ほどの相談があり、71人の就職が決まった。潜在保育士の方の働きたい条件と、保育所側の働いてもらいたい条件が微妙にずれているケースがあるので、そのあたりを調整して、就職につなげていきたいと考えている。

今年の秋以降の運用開始になると思うが、保育所の求人情報や就職希望の潜在保育士の方の情報が、スマホなどでも簡単に登録できるようなシステムを今開発中であり、

そういったものを通じてさらに保育士不足の解消に資するよう頑張っていきたい。

(委員)

資料3の3ページ、「4. 子どもの貧困対策」に、昨年度から困難を抱える子どもや家庭を早期に把握して適切な支援につなげるモデル事業の実施とあるが、これは具体的にどのような取り組みをしているのか。

(久山子ども家庭課長)

モデル事業は昨年度から始め、市町村の保健師や社会福祉士など専門の方々が幼稚園や保育園にアウトリーチし、保護や支援が必要な子どもを早い段階で拾い上げて支援につなげていこうという取り組みだ。市町村の支援チームが幼稚園・保育園を回る際には、県からも専門職員を派遣し、市町村を伴走支援している。具体的には、昨年度から笠岡市で、また今年度から玉野市も加え現在2市で実施している。

(事務局)

先程ご質問の地域型保育事業の昨年からの増加人数については、まず小規模保育がプラス80人、家庭的保育がプラス2人、それから事業所内保育がプラス30人である。

(委員)

保育士はいかに3密を避けるかということを生懸命考えている。世の中の人に保育士さんは大変な仕事をしているんだ、夢のある仕事をしているんだと理解してもらい、社会的な評価を上げていただきたい。また、企業型の保育園についてだが、大都市でどんどんでき、県や市町村も管理できない。これは、国の方で必ず認可保育園に近づけていただきたい。今保育現場は大変なことに遭遇しているが、一生懸命子どもとともに頑張っているという状況だ。

(委員)

処遇改善等も含め、保育士の社会的地位の向上など、この会議から発信でき、そういった認識はもうみなさんお持ちだと思うが、行政としてもできることには対応いただければと思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。

(委員)

資料1の4ページ、「7. 病児・病後児保育実施か所数」について、今かなりの場所で預かりができていますが、簡単に預けることができずに遠くまで子どもを連れて行って仕事に遅れるというような状況もあるので、もう少し実施か所を増やして預けやすくしていくような取組と努力が求められているのではないかと。

(桑原子ども未来課長)

一昨年、県内全市町村で預けられる体制は整えた。ただ、おっしゃるように県全体で家からすぐ近くに預けられる場所があるかと言えば、まだ無理なところもあるかもしれないので、幼児保育の充実を図っていく市町村を県としても支援していきたい。

(委員)

産まれてからの子どものサポートというところは、しっかり取り組んでいただいているような印象を受けた。子どもを産むことに対して不安がある人がいたり、子どもを産んでからの孤独感など母親はかなり強く感じるものだと私自身も感じている。自主的に交流を持っていくということもあると思うが、何か子どもを産みたくなるような取組が具体的にあればいいと思う。

(桑原子ども未来課長)

県のホームページで結婚に関する気運醸成の動画を公開したり、大学生などに結婚や自分の人生について考えてもらうきっかけをつくる講座を開催している。また、昨年の例で言えば、子育てしやすい環境を作るため、祖父母にその協力を得るための取組を行った。

ピンポイントではなく幅広くいろいろなことを行い、子育てしやすい環境を作っていくことが大事だと思っている。

(國富健康推進課長)

いきいき子どもプランの重点施策として、満足度の高い妊娠・出産・育児への支援を掲げている。早い時期から医療機関や保健師等が連携して妊娠期から支援したり、昨年度から出産後間もない時期の産婦が2回無料で受診できる健康診査を市町村で実施したり、産後ケアのサービスも取り入れている市町村もあり、お母さんに焦点を当てて子どもを産んでよかったと思ってもらえるような取組も行っているので、利用していただければと思う。

(委員)

縁むすびの事業について、私も知らなかったが、結婚したいと考えている若い方も知らない人が多いと思うので、知ってもらえたらもっと充実するのではないかな。また、子どもを初めて産むとき、何が何か全然わからず不安だったので、例えば病院と市町村が連携して、子どもを産むことに対して今後あることや受けられるサポートを事前に教えてもらえると安心できると思う。あと、今ぐらいの季節はすごく暑いので、公園などに暑さ除けの日陰になるような所がもう少しあれば、子どもを外に連れて行きやすいと思う。

(桑原子ども未来課長)

結婚支援システムのPRについては、ある程度焦点を絞っていくことも重要と考えており、来月以降、SNSやインターネットなどで、結婚に興味のある世代や個人にターゲットを絞ってPRしていこうと思っている。公園の日除けについては、公園の管理者が市町村なので、県が直接というのはなかなかできないが、担当課へそういった意見もあったということは伝えさせていただこうと思う。

(委員)

今回コロナで一斉休校になった頃、働くお母さん方を中心に子どもをどうしたらいい

いのかということが大きな問題になった。学校の場合、放課後児童クラブを開けて何とかしようと試みたが、実際は開けようとしても職員の手配ができない。また、学校の片隅辺りのプレハブや劣悪な施設で預かっていて、非常に3密状態だ。安心して働ける環境が子育てには重要なので、この問題は今後しっかり検討してもらわないといけないと思う。また、今後は数の問題もあるが、質を高めて安心して働けるような施設にしなければならないと思っているので、よろしくお願ひしたい。

(桑原子ども未来課長)

質の関係につきましては、これは精一杯やっていきたいと思っている。

(委員)

昔に比べると、最近男性の保育士の方も増えてきていると思うが、男性の保育士を増やしていくような取組を何かしているのか。また、県内の保育士養成校の学生数はどのくらいか。少しでも学生数を増やして、そのまま県内に就職してもらおうといった見方もあるかなと思った。

(桑原子ども未来課長)

まず、男性保育士を増やすための取組について、現時点でそういったことは行っていない。保育士になるには、保育士養成校を卒業するか、保育士試験に合格するという2つのルートがあるが、養成校を卒業して保育士になる方が多い。おそらく養成校に入る時点で希望者が少ないのだろうと思っている。

保育士養成校の学生数は、県内で1,100人ぐらいで、そのうちだいたい6割ぐらいが保育所に就職して、さらにその6割ぐらいが県内に就職するというのが現在の状況だ。これについては、保育士養成校と連携して保育人材の確保に向けた事業を行っている。

議題4 その他

(桑原子ども未来課長)

資料4に基づき説明

(委員)

5ページの主な生き活き指標例だが、放課後児童クラブ実施箇所数という要はハード面のところでの指標になるので、例えば放課後児童支援員認定資格研修の修了者数やキャリアアップ研修、資質向上研修の修了者数・受講者数など可能であれば入れてはどうか。

(桑原子ども未来課長)

指標については、全体のバランスもあると思うので、今後検討させていただきたい。

(委員)

県外への人材流出と言うか、大学から県外に出てそのまま帰ってこないというところもあるかと思っていて、そういった意味ではインターンシップの機会なども大事にしたいと思っている。例えば保育所や親子支援をされているようなNPOなどでのインターンシップやボランティア体験の機会の提供をより増やしていく形で、ああいう人になりたいとか、岡山でこういう仕事に就きたいなど、そういったいいロールモデルに出会える機会を、こういった取組と連携しながら広げていけたらいいなと思っている。

(委員)

青年会議所は、町づくりや青少年育成といった活動をしている。玉島青年会議所では、倉敷市と連携して、出前講座という形で、中学2年生に地元企業の魅力や社会人として大切な働く上での心構えなど伝える活動を十何年続けている。先程話のあった県外流出という問題は、本当に大きい問題だと我々も思っているし、できるだけそれぞれの地域の魅力を子どもたちがまだ小さい頃からしっかり発信していこうということで、大きい取組はないかもしれないが地道にさせていたいただいているところだ。地域愛、地元愛を育てていけるような活動をこれからもしていかれたらと思っている。

(委員)

地域に根ざして、地域の人とも一緒に活動するということをモットーに、地域の人と一緒に見守りや声掛けをしたり、経験を生かしながら若いお母さん方と一緒に子育て相談をしたりしている。愛育委員というのは、やはりその活動が地域づくりだと思うので、これからも声掛けや見守りなどを中心に活動していきたい。

(委員)

これから生まれる子どもが20歳になるまでの壮大な岡山県の基本計画だ。私は地域間格差を非常に心配していて、行政が地域間格差をつけないように、県内全体が伸びていくような20年間にぜひしていただきたい。

(委員)

鏡野町でも、来年度からの振興計画の作成をしている。県の特色も入れつつ、鏡野町の特色を入れた計画になるように、私共としても計画に反映できればと思っている。

(委員)

今回の構想の一つの大きな柱に教育県岡山の復活ということを掲げているが、具体的に何をもって教育県岡山の復活ということになるのか。

(細川教育政策副課長)

これからやってくる予測不可能な時代にも自らの力で自分が歩いていく道を切り開いていける、そういう子どもたちを育てるために何が必要なのかをしっかりと考えて、知・徳・体をバランスよく育てていきたい。その先に、教育県岡山の復活があると考え

ている。

(委員)

生きる力や非認知的能力といったところだと思うが、なかなかそういったものを数値化するのは非常に難しいので、単に進学率だけ、学力テストの順位が何位かということではなくて、そういった今後のところをぜひ見据えて施策等を検討いただければ。

(委員)

これからの2040年、この頃の岡山県を考えると、人口流出や消滅都市の問題が大きいと思う。岡山が生き残るためには、この問題は避けて通れない。私も含めて多くのみなさんがそう思われているのではないかと思うが、都会に出て一旗揚げの子どもを育てることがいいことだ、また、そういう子がいい子だというような風潮があると私は思っている。その挙句の果てが、今の中央に人口が集中して、地方都市がどんどん落ちぶれていくみたいな状況になっていると思う。

もちろん都会へ出て一旗揚げするというのも価値として素晴らしいことで、これを否定するものではないが、これからはそれと同じように、地域のために貢献する子どもを育てるという視点に立って、地域で頑張る人も同じように立派なんだと岡山県全体がそういう意識に囚われないと、岡山県はだめになっていくと思う。この施策を実行すると、県に子どもが残るのか残らないのかという視点を最重要視点として、施策を考えていただけたらありがたい。

以上